

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十七年
五月

母の大東亞知識

こうしてゐる間にも、日本軍は次から次へと、新らしい土地へ、海へ、空へ、進攻してゐるのです。どこを占領した。どこを爆撃したと、新聞やラジオで報道せられるのは、主な土地の名だけですよ。その主な地名を地圖にさがして、しつかり覚えるだけでも、忙しいほどです。その他に、どの位いろ／＼の山の名が、川の名が、町の名が、又、海の名が、島の名が、日本軍の手数をかけたり、惜しい血をこぼしたり、そうしては、日本との深い關係になつていつてゐることなのでせう。

それらは皆、お母さんが学校の地理でも學ばず、その後も何んの關心も持たなかつたところですよ。しかし、今日はそのいきません。これからの日本とは、そんな無關係なことでは済みません。地名としてだけではありません。その風土、住民、産業、文化、それを知らないでは、明日からの日本は考へられないのです。

子ども達は、之れから後、それらの土地のことを、内地の土地のことと同じに、くわしく知り、親しみをもちに委りませう。是非そうさせなければならぬのです。ところで、その子らを教育してゆくお母さんの、その點に就ての知識はどうでせう。若し、若しですよ。それが不十分だったら、今日の日本のお母さんとして足りませんね。そんなことで、これからの日本の子どもを教育出来ませんか。

幼稚園から

○幼稚園には大東亞戰爭地圖がかけてあります。家庭でも、お子さんのよく見へるところに、それをかけて下さい。

○幼稚園では新爆撃、新占領の報道があると、その地圖で示して話します。家庭でもして下さい。むつかしい地名で覚えられないのがあつても構ひません。たゞ、こゝでといつて實感的に話して喜び、有り難いことだと話せばいいのです。

○幼稚園では臨時ニュースの大本營發表はどの時間であつても出来るだけ注意して聴くことにしてゐます。家庭でもそうして下さい。分る分らないではありませんが、それを聴いてゐる私達の眞面目な態度が、子どもに何かを感じさせずに置かないのです。殊にあの、前と後との軍歌の演奏の勇ましきは、子ども心にも一生忘れられない記憶となるでせう。

○幼稚園と家庭との協力。國の大切なことは決して一方だけではないこと。